

スポーツ文化の風を発信する

学報NITTAIDAI20号

2009.Summer



CONTENTS

特集■教育展開を語る — 1

～教育・学生支援の充実に向けて
学長、体育学部長、短期大学部長、キャリア支援センター長、
大学院研究科長、事務局長メッセージ

INTERVIEW ●アスリートたち — 11

NEWS●09年度上半期ニュース — 14

INFORMATION ●dot.NITTAIDAI — 15



上野美紀(体育学科2年)

撮影 横浜・健志台キャンパス テニスコート

特集

教育展開を語る

グローバル化が進展し、社会情勢が目まぐるしく変化する中で、次代を担う「人づくり」が、ますます重要な課題となっている。その中核となるのが大学教育であることは言うまでもない。また、2016年東京オリンピック招致ムーブメントをはじめスポーツ界に向けられた期待も大きい。時代の、そして未来へ向けたチャンスメーカーとなるべく、日々改革に取り組んでいる執行部に現状と展望について語っていただいた。

次代を見据えて 実践的教育を推進

学長 落合 卓四郎
おち あい たく しろう

有益な社会人を送り出すことをこれまで以上に徹底する。

08年夏に東京世田谷キャンパス再開発第一期工事が竣工。その他、本学が掲げる大学改革構想を着々と推進してまいりました。

昨年秋季以降、社会情勢が加速度的に変化していますが、どのような状況であろうとも、本学が体育・スポーツの中心大学として重い責任を負っていることに変わりありません。引き続き、改革を強力に進めていく所存です。

この大学改革の目指すところは、学生の目線に立つたわが国のトップを走り世界をリードする個性豊かな「体育・スポーツの日体大」に向けての日体大（教育）モデルの創造です。素晴らしい伝統と実績を基盤に、持てる力をさらに進化させていくことが本学の使命であり、時代の要請でもあります。しっかりとしたミッションに基づき、カリキュラム・教育体制を整備し、

有益な社会人を送り出していく。これを今まで以上に徹底し、遂行していきます。このような厳しい時代だからこそ、本学の教育ミッションを世に問いたいと思います。

実践を通して学び、考える力に身をつける

大学教育において、社会の期待に応える人材の輩出という視点が、ことさらに重要になってきています。それは、中央教育審議会の答申（学士課程教育の構築に向けて）にもある通りです。本学の教育ミッションは、これを先取りしたものであると自負しています。

その中で、特に強く訴えていきたいことは、実践による教育の徹底です。これこそ、次代の「日体大モデル」の根底を成すものです。学友会活動、あるいは地域での活動を通して、考える力、社会で生きる力を身につけていく。09年





度カリキュラムにおいては、学生たちの自主的な活動を促すことを目的に、卒業に要する必修科目を3限目までに配置するという抜本的な改訂を行いました。また、大学改革構想では、新スポーツ局を教育構造の枠組みの中でとらえ、教学・学友会活動と一体となつてさらなる競技力向上に努めることはもとより、地域の皆様に貢献できるプログラムが開発できないか、今後検討していく予定です。東京世田谷キャンパス再開発完成の際には、各施設を地域の皆様に積極的に利用していただくとともに、活発に交流し、学生の研鑽の場としていきたいと考えています。

入試改革、キャリア支援の推進

07年度に「キャリア支援センター」「アドミッションセンター」を開設。また一般入試実技試験種目の変更、AO入試を導入するなど、「入口」「出口」の強化に努めてまいりました。

スポーツにモチベーションを持った日体大にふさわしい受験生を二人でも多く受け入れていくためにも、入試改革は引き続き重要な懸案事項です。また昨今の経済事情を鑑み、キャリア支援にも一層注力していきます。

ここで、特に重要になってくるのが、保護者の皆様、卒業生の皆様との連携です。これまで、保護者会、同窓会、学友会がそれぞれにミッシ

ョンを持ち、素晴らしい活動を展開されてきました。さらに、オール日体大のエネルギーを集結し、活動の充実を図るために、各組織のホルダーとなる校友会の設置計画を現在進めております。今後とも、皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さらに社会に開かれた大学へ

東京・世田谷キャンパス新教育研究棟には、生活道路とキャンパスを隔てる高いフェンスがありません。スポーツを軸に、保護者の皆様、卒業生の皆様はもとより、地域の皆様、そして学生たちが果立っていく一般社会との接点をますます密にしていきたい。09年度はその第歩を踏み出す元年と考えています。11大学改革構想も、そのような視点でさらに検討を重ね、次のステージへと発展させていきたいと思っています。

学生の皆さんが、卒業して社会に出る日。その日から、皆さんの立場は劇的に変わります。社会に支えられる側から社会を支える側へ。そのプログラム変換が自然とできるように、新しい構想のもと、教職員一丸となつて教育に取り組んでいきます。社会で生きていくための学習は、二にも二にも実践です。本学が目指す方向性をよく理解し、それぞれの目標の実現に向けて努力して欲しいと思います。



建学の精神、ミッション、ヴィジョンの共有に向けて 2009年度新カリキュラムの展開

体育学部長 清田 寛
きよた ひろし

● 2009カリキュラムの狙いは何でしょう

社会では、大学教育における「学士力」の向上が強く求められています。その根幹となるのが、教育課程、つまり「カリキュラムポリシー」です。これは当然のことながら、本学の建学の精神、ミッション、ヴィジョンに基づくものであり、本学の教育理念を達成するために「アドミッションポリシー」、「ディプロマポリシー」とが一体を成すものであり、これらのポリシーが充実することにより、学士力が担保され、向上することについては疑う余地もありません。今回の改訂では、この3つのポリシーを本学の中で明確に位置づけたこと、そして建学の精神、ミッション、ヴィジョンに則ったカリキュラムに整備し直したということが、前提となっています。

● 具体化に向けた取組みについてお教えください。

現在進行・検討している学部長を中心としたプロジェクトで最も重視している点は、初年次教育の充実です。このプロジェクトは

四つに分けられます。

一つは「体育スポーツ科学入門」の開講。本学に入学した学生に対して、4年間どのような教育を行っていくのかを徹底させる柱となる講座です。これを半年かけて行います。多くの先生方がその科目に参加してオムニバス形式で展開するなど、本学では初の大掛かりなプロジェクト型授業となるでしょう。

二つ目は「基礎教養ゼミナール」です。教養・教職科の先生方が中心となり、見る、聞く、書くという基礎的な能力に主眼を置いてシラバスを展開する予定です。

三つ目は「社会貢献実習」。キャリア支援担当教員、就職対策委員会、キャリア支援センター等、関係セクションと連携をとりながら検討を進めています。

四つ目は「クラブ活動」です。実践教育の重要な場と考え、単位認定、つまり授業の一環です。これが実現すれば、本学の大きな特長の一つになると思いますし、学生にとっても励みとなるでしょう。

体育学科

狙い

- ①多様な競技の実技科目を設定
- ②専門性の高い中学校・高等学校教員を養成
- ③豊富な野外実習で実践力を習得

スポーツ教育専攻

学校体育の指導者を養成。教職を目指すカリキュラムを徹底

アスレティックトレーニング専攻

アスレティックトレーナー養成に重点

スポーツコーチング専攻

競技スポーツに焦点を当て、トップアスリートやコーチングスタッフ等を養成



●その他の改訂点はいかがでしょう。

コースから11専攻に移行し、柔軟な対応が可能になりました。

また、学生の目線に立ったカリキュラムのスリム化も推進しています。具体的には、卒業要件科目を見直し、月々金の各曜日の1時限目から3時限目までの間で卒業要件単位が取得できるように設定しました。あわせて、キヤップ制を導入し、体育学部各学科で、1年間で取得できる単位数の上限を設けました。これらの点が2009年度カリキュラムの大きな違いとなっています。

2011年には東京世田谷キャンパス再開発三期工事が竣工する予定です。この頃には、2009年度カリキュラムも単独で運用されるようになります。それに向けてさらにバージョンアップしていきたいと考えています。

●学内の意識改革も必要ですね。

これまで学生教育は教員が中心となっており、行ってきました。もちろん今後も変わりませ

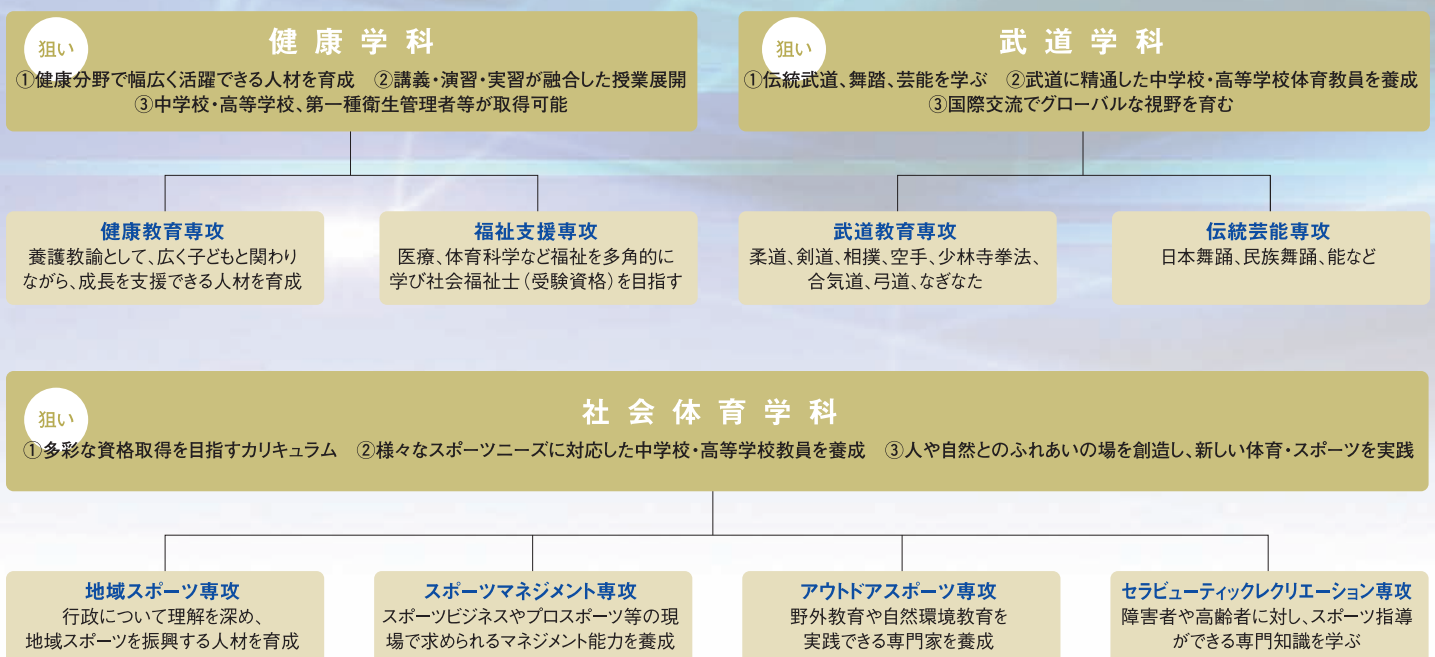


んが、一方で、教員だけでは対応しづらい時代になってきたとも言えます。その意味で、今後は教職員が一体となり、車の両輪となって学生教育を考えていく時代に入ってきています。その好例がキャリア支援センターです。ここでは、担当教員を配置しておりますし、職員も学生対応にあたっています。学生サービス向上のためにも、ますます連携を強めていきたいと思っています。

●学生に向けたメッセージをお願いいたします

今年度からの新しい取組みとして、新入生オリエンテーション時に、学科・専攻別に、その学科のカリキュラムポリシーを説明しました。これを理解していただければ、皆さんが何をしなければいけないのか明確に見えてくるはずです。入学した当初の目標を見失わないで、それに向かつて4年間努力を続けて欲しいと思います。

体育学部 新専攻体制



本学短期大学の

特色を活かした魅力づくりを

～初の卒業生を送り出した専攻科保育専攻～

短期大学部部長

村上 修
むらかみ おさむ



●短期大学部、また初めて卒業生を送り出した専攻科保育専攻の初年度を振り返って総括をお願いいたします。

専攻科保育専攻はもとより、短期大学部として、二つの点で非常に良い教育システムが確立できたと自負しています。

一つは少人数教育の徹底。これは従来から行っていることですが、特に専攻科保育専攻は実技授業を重視していますので、大きな教育的効果が発揮できたと思っています。

二つ目は実習の充実。3年間を通して幼稚園と保育園で2回ずつ実習があり、さらに児童福祉施設でも実習を行っています。実社会と直接触れながら学ぶということは、今や大学教育で不可欠です。繰り返し実習を体験することで、幼児教育や保育に対して深く学べる環境を整えています。

実習先の先生方からも、日体大生はフットワークが良い、元気で明るい等、好評をいただきました。体育・スポーツの専門大学として、健康、スポーツ、運動、遊びに強みを発揮できる学生を育ててきましたが、3年間でそのような資質や能力がしっかりと身についたのではないかと感じています。

●今後の短期大学の展開はいかがでしょう？

短大の特長は、2年間の短期間で学習ができる、社会や職業で必要とされる実務能力を身につけることができる、それとともに教養教育、一般教養も並行して身につけることができるという点にあります。この3点を徹底していくことが、短大に課せられた使命です。

全国的に短大を取り巻く環境が厳しい

中で、体育科については学生募集が堅調に推移しています。卒業生の約8割が4年制大学に進学するなど、編入モデルもよく機能しています。

幼児教育保育科については、さらに日体大らしい個性を明確にし、他の保育士養成機関を持つ短大との差異化を図っていくと考えています。具体的には、身体、健康、栄養、スポーツ等に関する科目についてさらに時間数を充実させるよう、カリキュラムを検討しているところです。職業人として、子どもをよく理解し、子どもに積極的に働きかけながら、その個性、特長を敏感に感じとっていける指導者・保育士を育成していくことで、本学短期大学の存在価値を発揮していきたいと考えています。

●専攻科保育専攻についてはいかがでしょう？

国の政策としても、幼保三元化が今後ますます推進されていくことは間違いありません。今年の幼稚園教諭の採用状況においても、保育士の資格を持つ人材を希望する傾向が見られます。子どもを教育するだけでなく、子どものケアの知識・技能、福祉的な視点等を有する指導者が求められていくという流れになっていますから、まさに専攻科保育専攻は社会的な要求にマッチしたプログラムであると言えます。幼稚園、保育園だけでなく、認定こども園、ベビシッター等、働く母親の保育機関へのニーズは高まっています。今後も、幼稚園教諭と保育士の資格を持った優秀な卒業生を送り出していききたいと思います。

■幼児教育保育科で取得できる資格

幼稚園教諭2種免許状 (短大2年間で取得)	文部科学省が管轄している教員免許。 幼稚園は「学校」として位置付けられているので、幼稚園教諭になるためには教員免許状が必要
保育士資格 (専攻科を含め3年間で取得)	厚生労働省が管轄している国家資格。 公立、私立の保育所や児童福祉施設などで働くための国家資格
全国認定ベビーシッター資格 (専攻科を含め3年間で取得)	(社)全国ベビーシッター協会が交付する認定証。 在宅保育に必要な専門的知識や技術を持っていることを証明する資格

保育の知識が深まった

短期大学部 専攻科保育専攻

2009年3月卒業生

小嶋

こじま

温美

あつみ

●専攻科保育専攻に進学しようと思った理由は何ですか？

初めは幼稚園教諭に憧れ幼児教育保育科に入学しましたが、ここで保育について勉強していくうちに、さらにそれを深め、保育士の資格を取得したいと思うようになりました。それが専攻科保育専攻に進学した理由です。

●専攻科保育専攻で印象に残った授業、実習等について教えてください

実技の授業が多く楽しかったです。剣玉やコマなどの遊びを自分で体験してみたり、

工作に取り組んだり、保育士になってから役に立つ体験がいろいろできました。近隣の園児を授業に招き、劇を披露したことも楽しい思い出です。

●専攻科保育専攻に進んでよかったと思う点は？

短期大学部1、2年生の時はおもに教科書を使って勉強してきましたが、専攻科保育専攻では実技を中心に学びましたので、より理解を深めることができました。また認定ベビーシッターの資格も取得しましたが、保育のさまざまな場面における注意点を知ることができ、知識の幅が広がったと思います。

●これからの目標は？

まず、先輩たちの保育を見て勉強していきたいです。経験を積み、子供たちのいいところを伸ばしてあげることができるようになりたいですね。中学から大学まで柔道を続けてきましたので、礼儀や感謝の気持ちなど、人間として大切なことも、スポーツや遊びを通して伝えて行きたいと思っています。



●短期大学部で学ぶ在学生に対してメッセージをお願いいたします。

保育士の資格を取得することは、自分のためにもなります。専攻科保育専攻では、シングルマザーやDVの問題も学びました。子どもを育てるとは、母親になるとはどういうことか。考えさせられることがいろいろありました。

日体大キャリア支援への取組み

平成20年度公立学校教員採用試験合格者数は卒業生を含め280名を超えました。また、企業への就職においても日体大生の行動力や人間関係構築能力などが高い評価を得ており、さらに公務員においてもその活躍の場が着実に広がっています。引き続き支援体制を充実させていきますので、学生諸君は「キャリア支援センター」の諸プログラム、相談を積極的に活用してください。

キャリア支援センター長

清田 寛
きよた ひろし



●2009カリキュラムにおいても、キャリア科目が重視されていると思いますが、強化・再編された点をお教えください。

カリキュラムの中では、区分として社会人基礎力科目、キャリアデザイン及び社会貢献科目を1年次より導入しています。社会貢献実習については原案作りを進めています。横浜市、世田谷区等との協定による活動を継続していく予定です。時代の変化に伴い、情報は多様化しております。その中で、学生自身が、将来をとらえた考え方、実際の現場での経験などを体験し、学生生活を過ごしていけるよう設計しています。

●2007年度に「教員採用100名プロジェクト」が立ち上がりましたが、今までの成果と今後の展開についてお教えください。

教員採用試験対策は重点的に強化していかなければいけないと考えています。

キャリア支援センターでは、教員の現役合格者100名を目指し、平成19年度にこれをスタートさせました。団塊の世代の退職の時期を迎え、教員採用試験合格者がここ数年増えてきている状況です。その中で教員採用試験対策として資質向上の宿泊研修を実施しています。

平成20年4月から採用の公立学校教員採用試験では、全国の卒業生も含めた日体大の合格実績は323人でした。現役4年生の教員採用試験合格者は28人です。キャリア支援センターでは今後さらに教員採用試験対策を充実させ、学生が勉強する環境を良くする方策となるプロジェクトを企画・実施していきます。

●昨今の経済事情に鑑み、特に検討されている対応策はありますか。

一例としては、昨年度クラブガイダンスを3か月ほど早めて実施しました。特に企業希望者のために就職活動をあきらめないよう、平成21年度より専門のキャリアカ

ウンセラーを配置します。昨今の就職活動の環境は厳しいものがあり、個別指導を充実して実施していかなければなりません。また、公務員希望者も早めの試験対策に取り組む学生が多くなりました。公務員の第二関門は筆記試験であり、キャリア支援センターでも重視しています。学生には企業も公務員も早い時期からの準備が必要だということを徹底して指導し、支援対策講座も含め、取り組んでいきます。

●学生に対して、キャリア形成について望む点は何でしょう。

大学生活を充実して過ごして欲しいことが一番に挙げられると思います。何かに打ち込むことも大事でしょう。進路の面で言えば、早い時期から目標を持ち、それに向かって準備していくことが大事です。そのためには学生生活を充実すること、抱いた目標を実現できるかな?と疑問で終わるのではなく、絶対実現する!という

意思の強さが大事だと思います。

●保護者の方、卒業生の方にご注意いただきたい点がありますか。

保護者の方には「ご息女、ご子女と機会のある時に、本人の将来の考え方を確認していただければと思います。考えることにより事前進路に向けての準備もできます。卒業生の方に対しては、本学キャリア支援センターは学生時代だけのサポートではないので、ぜひ卒業後も利用していたければ幸いです。

●日体大生のセールスポイントは何でしょう

部活動等で二つのことをやり遂げた日体大生は、他の業界で活躍しても充分実績を残せると自負しています。質実剛健・団結和協、校歌にもありますが、スポーツを通じて、社会人の基礎力を持ち合わせている優秀な人材が多いと確信しています。

平成20年度 卒業生の主な就職先50音順

【学校教員・職員】

■公立学校
各都道府県、市町村
小学校教諭
中学校保健体育教諭
中学校養護教諭
高等学校保健体育教諭
高等学校養護教諭
特別支援学校教諭
他 多数
■私立学校
関東学院中学校・高等学校
近畿大学附属中学・高等学校
クラーク記念国際高等学校
佼成学園
三幸学園
実践学園
聖ヨゼフ学園小学校
仙台育英学園
(高等学校、秀光中等教育学校)
土浦日本大学高等学校
桐蔭学園
武蔵野学園小学校
他 多数

【幼稚園・保育園】

高尾幼稚園
東立川幼稚園
若草幼稚園
その他 幼稚園多数
洗沢保育園
田奈保育園
用賀なのはな保育園
その他 保育園多数

【国家・地方公務員】

防衛省
警視庁
神奈川県警察本部
石川県警察本部
その他 各都道府県警察本部多数
川越刑務所
川崎市消防局
東京消防庁
東京入国管理局
横浜市消防局
その他 各都道府県消防局多数
安中市役所
江戸川区役所
他 多数

【スポーツ関係】

■スポーツクラブなど
いせはらチャンピオンテニスカレッジ
ウェルネススポーツクラブ
カワイ体育教室
コナミスポーツ&ライフ
湘南ベルマーレSCフットサルクラブ
セントラルスポーツ
ティップネス
メガロス
ルネサンス
他 多数
■スポーツ用品
BIKE&HIKE
オッシュマンズ・ジャパン
マクダビット・ジャパン
ザナックス
ヒマラヤ
アルペン
ヨネックス
ナガセケンコー
他 多数

【病院・福祉施設】

佐倉ゆうゆうの里
戸田中央総合病院
戸塚共立第一病院
特別養護老人ホームトラスホーム
他 多数
【非営利団体関係】
聖隷福祉事業団
日本体育会
日本老人福祉財団
日本赤十字社
各都道府県体育協会
他 多数

【製造業】

旭化成
アルゼ
エフ・ティ・シー・フレンズ
オンワード樺山
オリンピック
キャンノ
グラクソ・スミスクライン
三井
サントリー
三洋電機
セノー
東京コカ・コーラボトリング
東京洗染機械製作所
トヨタ自動車
トヨタ・インターナショナル・ジャパン
西尾レントオール
日本食研
日立製作所
ファブリカ(ラコステ)
フォーナインズ
富士薬品
マトリックス
丸順

持田製薬

雪国まいたけ
リコー
他 多数

【金融・証券・保険】

秋田銀行
朝日信用金庫
飯田信用金庫
大垣共立銀行
鹿児島銀行
北部信用組合
日本生命保険相会社
野村證券
百十四銀行
三井生命保険
横浜信用金庫
他 多数

【建設】

住友林業
生和コーポレーション
トータルシステム
丸杉
他 多数

【不動産】

スターツコーポレーション
生和不動産保証
ミニミニ
明和住販
TBC
ディリーススポーツ案内広告社
図書印刷
トヨタレンタリース東京
日本管財
日本ユニシス・サプライ
プラザクリエイト
モンテローザ
リラク
他 多数

【水道・電気・ガス】

東京ガスケミカル
東京電力
東邦ガス
他 多数

【交通・物流】

小田急電鉄
佐川急便
シグマブレーンサービス
東海旅客鉄道(JR東海)
東日本旅客鉄道
他 多数

【卸】

アルフレッサ
エナリス
国分
日本アクセス
他 多数

【小売】

茨城ダイハツ販売
イービーシー・マーケット(ABC-MART)
オーケー
神奈川ダイハツ販売
カワチ薬品
コーセー
コーチ・ジャパン
サンキョー
ジョルジオアルマーニジャパン
スターバックスコーヒー・ジャパン
東京トヨペット
トールコーヒー
トヨタ部品富士共販
トヨタレンタリース横浜
ドン・キホーテ
P&Gマックスファクター
ピットウキョウ
富士ゼロックス東京
ファミリーマート
ポロラルフローレンジャパン
ホンダカーズ東京中央
ヤナセ
ヤマダ電機
横浜トヨペット
他 多数

【情報・IT】

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ
エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア
トランス・コスモス
日本ソフトウェアマネジメント
日本ユニシス
光通信
ビーブルソフトウェア
フィキューブ
富士通
富士通エフ・アイ・ピー
富士通ソーシアルサイエンスラボラトリー
他 多数

【警備】

高栄警備保障
甲府警備保障
セコム
全日警
総合警備保障
他 多数

学部・短大のキャリア支援展開

【教 員】283名の採用試験合格者(H21年度採用)

【企 業】約92%の安定した就職率

【公務員】人気の警察官、消防官、自衛官に採用決定



教員採用対策講座

講 座	対 象 開催時期	内 容
公立学校教員採用試験対策講座	学部3年 短大1年 10月～12月	各都道府県別教員採用試験の採用状況および試験内容の留意点
筆記試験対策講座(教職・専門)	全学年 7月、2月	教員採用試験対策教職教養・専門教養編講座(外部講師)
2次試験対策	全学年 7月～8月	自己PR・論文の書き方・集団討論・模擬授業・模擬面接
教員採用試験模擬テスト(年5回)	全学年	教員採用試験模擬テスト(一般・教職教養、専門教養、論文文)
教員採用試験のための勉強会	全学年 通年	教員採用試験のための勉強会 (講師:教職教育研究室教員・非常勤講師、外部講師)
マンスリーセミナー・ウィークリーセミナー	全学年 7月、9月、12月、3月	教員採用試験現役合格のための研修 (講師:教職教養研究室、OB校長)
「小学校教員資格認定試験」対策講座	全学年 3月	小学校教員資格認定試験対策講座
学生アドバイザーによる合格体験コーナー	全学年 10月	現役合格した学生からアドバイスをもらえる



期待が集まる大学院のこれから

大学院研究科長

高橋 健夫
たかはし けんお

●大学改革構想において、大学院は重要な位置を占めてくると思いますが、今後の構想についてお聞かせください。

大学院には大きく二つの目的があります。一つは研究者養成。博士後期課程まで進み、研究所、大学に勤務する研究者になる人材を養成する役割です。

もう一つは高度な職業人を養成すること。この領域について、大学改革構想と関連して今後さらに注力していきたいと思っています。体育の分野で言えば、スーパーティチャー、スーパーコーチャーを育成していきたい。つまり、指導実践者、マネージャーです。

博士前期課程、いわゆる修士課程はその役割も担う必要があるわけですが、現実には研究志向がまだまだ強いと言わざるを得ません。各教員養成系の大学が教職大学院を作るなど、社会的ニーズにもなっています。本学に入学する学生の多くが体育の分野で教員を目指す中、大学院も大きく転換する必要があると思うのです。

研究者になりたい学生と修士課程で学びこーティチャーになりた学生との両方の目的に添った大学院が求められています。この背景を踏まえ、今までのスポーツ科学を主とした大学院に加え、スポーツ実践に特化した大学院を作っていきたいと考えています。

その中心の柱として「スポーツコーチャー」と「スポーツ教育」の二つを据えたいと考えます。そこでは、フィールドワークを中心とした研究

を徹底して取り入れます。授業の計画を立てる、実際に学校へ行つて実践する、そして大学に戻つて検証する。さらにどこに問題があったのかを考察し、再び計画を立てる。このサイクルを経験的にやるのではなく、研究的に確立することが狙いです。これらを通して高い能力を持ったスーパーコーチャー、スーパーティチャーを養成したいと考えています。

本学には実践力の優れたコーチャーがたくさんいます。また教員を目指す学生も多い。日体大が他大学に先駆けて着手する意義は十分にあるだろうと思います。概ね、今年いっばいでグランドデザインを作つて、申請に進むという展開を予定しています。

●地域との連携も重要になってきますね。

大学の中の模擬授業やクラブの中での指導という実践もありますが、この構想はさらに広い範囲での研究を想定しています。例えば、小学校・中学校・高等学校や地域のクラブで指導するといった研究を考えていますので、教育委員会あるいはスポーツ産業等との連携を構築していく必要があります。

●大学院として、学部学生に対して望むことは何でしょうか？

今まで申し上げてきたように、大学院には研究者養成と高度な指導者養成という二つの目的があります。まずは、研究のみを目的としているのではないことを理解していただきたい。

もちろん、将来博士後期課程を目指したい学生は徹底的に研究してもらいたいと思います。

一方、良い教員、良いコーチャーになりたいという学生は、狭い領域に閉じこもらないで、職業分野を広く見渡して、あらためて体育、スポーツを総合的に勉強してもらいたいと思います。大学院で学んだ上で、就職することは、この点で大きな意味を持つてくるはずですよ。4年間では、体育を総合的に学ぶ時間は決して十分でありません。体育とは何だろう、どういう使命感を持つているのかということを、ぜひ大学院で学んでください。

●社会人の入学も期待されますね

大学教員を退職された方、中学・高等学校の教員を退職された方も本学の大学院を志願されています。現場の先生方にも積極的な門戸を開放したいと思っています。その方が、学生に対してもメリットが大きい。良い刺激になります。

多くの体育教員を輩出してきた本学だからこそ、日本の「体育」に果たす使命は大きい。そのためにも、スーパーティチャー、スーパーコーチャー育成に向けた構想を早期に実現したいと思っています。



■大学院博士課程

標準修業年限	博士前期課程	2年
	博士後期課程	3年
学位について	博士前期課程	修士(体育科学)
	博士後期課程	博士(体育科学)
取得できる免許状 (博士前期課程)	中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育) ※ただし、一種免許状を既に取得している者	
	養護教諭専修免許状 ※ただし、一種免許状を既に取得している者	

組織活性化に向け、さらに前進

事務局長

大谷 潔
おおたに きよし

●4月から事務組織が改編されましたが、意図するところは何でしょうか？

18年度に新たな事務局組織が編成されてから3年が経過しましたが、この間の業務実態に照らし、部見直しを要するとの判断により改編しました。

まず、組織のスリム化の観点から「部」課の統廃合に次いで、事務効率の向上の観点から「学生募集広報」を入試課から広報課へ移管し、大学広報を一元化したこと、また「健志台管理課」を新設し、健志台業務の二元管理と指揮命令系統を明確化したこと」です。

併せて、学生支援業務等を強化するため学務系を中心に配置人員の増を行っています。

●事務組織の改編に併せて大幅な人事異動が行われましたが、意図するところは？

今回の人事異動は、組織改編との関連はもちろんですが、基本コンセプトは次のようなことです。

事務局の業務は大別すると管理系、会計系、学務系、情報系、図書系の分野に分類できますが、30代半ばまでには、2年～5年サイクルで、できるだけ横断的に各分野を幅広く経験し、総合的な実務能力を身につける。言い換えればゼネラリストとしてのキャリアを形成していくということですね。（昨秋、これに関連する事務連絡協議会申し合わせ事項を職員の皆様に周知済みです）

その上で、将来的には各個人の資質・適性等も考慮しつつ、柔軟に適材適所の配置が可能となるようにしたいと思っています。専任職員の規模等から考えれば、当面はこのような方針でいきたいと考えています。ただ、一方では専門性が必要とされる特定の業務については、スペシャリストの養成・配置も大切なことであり、これについては業務特性と個人の能力と適性を総合的に考慮した上で、個別の対応が必要であると思っています。

●昨年、職員の意識調査が行われましたが、お気づきになったことや改善すべき点は？

職場環境等について、現場（職員）からの声（意識）を聞く機会として、初めて実施しましたが、結果として、今後の環境改善に向けての貴重な意見が多数ありました。

集計結果については、私の若干のコメントを付し、職員の皆様にお知らせいたしましたとおりで、改善すべき事柄への取組みは実行可能なものから着実にということですが、既に取り組んでいる事柄もあります。

当面は、人事の計画的な推進・実施及び専任職員の増員、他大学への派遣研修制度の検討等に取り組んでいきたいですね。

意識調査は今回のみとし、今後は制度として、定期的に職員の考えや意見が申告できるようなことが、皆さんの理解を得て構築できれば良いのかなと考えています。

●事務組織及び職員の果たすべき機能（役割）等とはどのようにお考えですか？

難しいテーマですが、基本は大学の運営体制の中で、政策（戦略）の形成・決定過程において、事務組織（職員）をどのようにとり込み、あるいはその執行過程でいかなる役割を任せていくのかに尽きるのではないのでしょうか。その仕組み次第で事務組織（職員）の果たすべき機能・役割は自ずから決まってくるのではないかと考えていますし、各大学ともそこをどうするかででしょう。

それはそれとしても、事務組織の活性化という観点では、現場の問題提起あるいは提案が大学全体の政策にいかにか反映されるかどうか、そのために組織が現場からの提案を汲むという機能（役割）を持ったシステムとなっているかどうか、重要なポイントになるのではないのでしょうか。

とりわけ私を始めとする管理職は、現場の実態をどう政策に結びつけて、現場の声で語って部（課）の職員をどう育成・統率するのか、そして現場の声を上層部にはつきり伝え、また提起することができるとか、その役割は重いと思います。

その結果として、担当者の提案が政策として実現した際には、組織としては大きな喜びと達成感を得ることでしょう。建前論に過ぎる

かもしれませんが、職員のモチベーションを上げるには、二つの大きなポイントではありますね。観点は少しずれますが、物事を起案する際には、前例も大切で、全く無視はできませんが、できるかぎり新たな発想を取り入れて企画・提案ができるとういことです。指示待ち型は見、楽なのですが、いかがなものでしょうか。

●職員へ伝えたい想いがあればお聞かせください。

日体大は、教員と職員との協働・協調意識と一体感が強いと思います。例えば、海浜実習や学友会の活動支援等々の取組みは、素晴らしい。

特筆すべきは、大学の諸行事（入学式・卒業式・入学試験等々）の実施に当たつての事務職員のプロジェク組織での対応です。その動きは校歌に謳われている【団結和協】そのものであり、【見事】の言に尽きます。全員が責務を理解し、迅速かつ積極的に行動し、全体の共通理解も徹底されているのを見るにつけ、職員一人の資質と能力の高さがうかがわれます。

今、事務組織や職員に大学運営に関する企画能力が強く求められている状況の中で、明るい期待が持てます。さすがに日体大。【組織の活性化に向け、共（友）に頑張りましょう】



高橋 速水

(体育学科・4年)



全日本大学選手権最多優勝27回(男子)を誇るソフトボール部。高橋速水投手は2008年度インカレ優勝に大きく貢献し、高校時代からの夢を果たした。現在、7月の世界選手権に向け、日本男子代表チーム強化指定選手としてトレーニングに励んでいる。次代を担うエースとして期待されている高橋さんに、今の心境を聞いてみた。

●パシフィックインターナショナルメンズシリーズに参加した感想は？
強化指定選手22名の内、17名が世界選手権日本代表に選ばれます。自分なりに良い結果を出そうと、この大会も頑張ってきました。強豪ニュージーランド戦では、チェンジアップなど緩急取り混ぜたピッチングが効果的でしたね。惜しくも準優勝となったのが残念です。

●世界選手権に向け、今後の課題は？
基礎的なフィジカル面でのトレーニングに引き続き取り組んでいきたいと思いますが、もう一つはISF(国際ソフトボール連盟)主催の国際試合で使われるボールに慣れること。黄色で、感触や縫い目の高さが違います。スピードにも影響してきますから、大事な課題です。

●ソフトボールを始めたきっかけを教えてください。
小学生の頃、兄と遊んでいるうちに自然とソフトボールを始めました。父がキャッチャーで兄と僕が投げる。その当時からずっとピッチャーです(笑)。中学の部活で、地元の高知に初めてウィンドミル投法を紹介した日体大出身の先生から指導を受ける機会がありました。それがきっかけで、本格的にやりたいと思うようになったんです。

●日体大に進学を決めた理由は？
高校はソフトボールの強豪校で、高校2年の時に、選抜・インターハイ・国体の三冠を達成しました。ところが、翌年は選抜優勝のみ。もっと上を目指したい。インカレで優勝したい。日本代表選手にもなりたい。もともと負けず嫌いなんです。高校の先生が日体大出身でしたし、兄も日体大に進学していましたので、迷わず選びました。

●大学生活はいかがですか？
思い出に残っているのは、スキー指導実習です。自分と違う競技の友達とたくさん知り合うことができました。とにかく僕は大学が大好き。遠征等がない限り、ほとんど欠席しません。友達と話しているだけですごく楽しいんです。授業では、ソフトボールのコーチングに応用できそうな教職関係の科目に興味があります。

●日体大に入学して、よかったと思うことは？
強化指定選手の中には日体大OBが何人かいらっしやり、相談にのってくださいます。皆さん後輩思いの方ばかりです。友達はもちろんのこと、日体大に入って人間関係がさらに広がったと思います。

●ソフトボールの魅力とは？
チームでプレーする楽しさです。その一方で、ピッチャーの出来が勝敗を大きく左右するというプレッシャーにもガッツが沸いてきます。ソフトボールが好きでずっとやってきましたし、これからその気持ちに変わりありません。将来的には教員が指導者になりたいと思っていますが、今は卒業後も競技を続けていくことを最優先に考えています。

●最後に日体大を目指す後輩にメッセージをお願いします。
僕のように一つの競技に打ち込んできた人も多いと思いますが、機会があればいろいろな競技に挑戦して欲しいですね。基礎体力や集中力を高める上で必ず役立ちます。日体大にはその環境があるし、さまざまな競技で頑張る友人たちから刺激を受けることができます。



インカレ制覇。世界選手権を目指し、力の限り投げ続ける

PROFILE

高橋速水(たかはし はやみ)
1987年・高知県生まれ
身長/178cm
高知県立岡豊高校出身
主な戦績
06年アジア選手権(兼世界選手権アジア予選)優勝
07年ISFワールドカップ優勝
07年全日本大学選手権 準優勝
08年全日本大学選手権・国体 優勝
「自分がゼロで抑えれば勝てる」。常にそう考えているという責任感。それが4年生になって一層強まった。ピッチングで行き詰ったら、バッティング練習をして気分を変える。ソフトボールのことが片時も頭から離れないという。

上野 美紀

(体育学科・2年)



中学・高校時代、国内外の大会・ツアーでプレーしてきた上野美紀選手。日体大に入学し、団体戦も体験。プレーの世界がさらに広がった。硬式テニス部の関東大学テニスリーグ一部昇格に向けて、その成長が期待されている。失敗を恐れず、常に挑戦し続ける。夢とボールをひたむきに追う上野さんに、テニスにかける想いを聞いた。

●テニスを始めたきっかけを教えてください。

両親が日体大出身で、幼い頃からスポーツに親しんでいました。最初は体操でしたが、小学校高学年になると、他の競技もやってみたいと思うようになったんです。テニスを始めたきっかけは、テレビで試合の中継を見ていて、格好いいなと憧れを感じたこと。テニスクラブに入会し、中学校もプレーに専念できる学校を選びました。

●中学・高校時代は大会やツアーの連続だったそうですね。

WTA(女子テニス協会)等のランキングを上げるために一試合でも多く出場したいと思い、国内外の大会に挑戦し続けました。アメリカで開催されたジュニアのビックイイベント「ITFジュニアオレンジボール」で、シングルスベスト16に進んだ時は、自分でも信じられないくらい嬉しかったです。

●日体大硬式テニス部でのプレーはいかがですか？

大学で初めて団体戦を経験しました。同じコートに仲間がいるのはすごく心強いですね。ジュニアの時には味わえなかった、チームのためにプレーする楽しさも知りました。チームの合言葉は「One For All , ALL for one(みんなは一人の為に、一人はみんなの為に)」。

●個人として、これからの課題は何でしょう？

試合中、気持ちのアップダウンが比較的小さい方だと思っていますが、時としてそれが裏目に出ることがあります。自分に厳しく、もっと攻めのテニスをしていきたい。それから、ラリーの姿勢が高いのも克服したい課題です。まずは関東学生テニス連盟の大会で予選を通過し、本戦の出場資格を得ることが目標です。

●大学生活はいかがですか？

授業では海浜実習が楽しかったです。最初は自信がありませんでしたが、3日間でだんだんと泳げるようになり、最後は1.5キロを完泳しました。何でも挑戦してみる。それが、私のモットー。日体大には挑戦の場がたくさんあって、とても充実した学生生活を送っています。

●テニスの楽しさとは何でしょう？

やはり、試合に勝つことです。辛い練習を乗り越えて勝った時の喜びは、言葉に言い尽くせません。努力がストレートに結果に現れてくる。テニスを通して成長していく自分を実感しています。

●将来の目標は？

スポーツマネジメントについて専門的に学べる点も、日体大を選んだ理由の一つです。実家がスポーツ関連事業を営んでいますので、日体大で学ぶことがきっと役立つはず。将来は、テニスとマネジメントの専門知識を活かして事業に関わっていかれたらと思っています。

●最後に日体大を目指す後輩にメッセージをお願いします。

失敗を恐れず、常に自分自身への挑戦を続けてください。そうすれば、皆さんの可能性はますます広がっていくはず。日体大は皆さんの挑戦を全力で応援してくれます。私たちと一緒に、アスリートとして、そして人間として、さらに上を目指して頑張りましょう。



PROFILE

上野美紀(うえのみき)

1989年・神奈川県生まれ

身長/165cm

私立日本航空高等学校出身

主な戦績

04年ITFジュニアオレンジボール

シングルスベスト16

06年ITF北京オープン ダブルス

優勝

中学・高校時代は、テニスクラブの専属コーチから指導を受けてきたので、部活動にあまり参加できなかった。日体大で硬式テニス部の仲間と練習することが、とても新鮮で楽しいという。尊敬する選手はダニエラ・ハンチュコワ。キューートで、スタイルがよく、テニスが強い。三拍子揃った彼女が理想。

<表紙を飾る>

テニスは自分への挑戦。勝つことで成長していきたい



「本学学生の大麻に係る事件について」

平成21年3月2日(月)、本学陸上競技部棒高跳びブロック所属の男子学生が、居住している合宿所において、大麻草を栽培し、大麻の吸引をしていたことが発覚いたしました。大麻に関する事件が社会的に大きな問題となっている昨今、これまで幾度となく注意喚起に努めてきましたが、本学でこのような事が起こったことはまさに残念であります。

教育の課程の上で、起きた事件の最終的責任は倫理的にも法的にも学長の私にあります。学長としては、なによりも事実の確認と把握に努め、今回の事態の背景も踏まえ、再発防止の徹底に努めることこそ、責任の取り方であると考えています。

大麻を栽培し吸引した学生本人の処分については最も重い退学処分とし、その管理監督責任として部長・監督・担当コーチを解任、同じ棒高跳び・幅三段跳びブロックの男子学生については無期限活動停止処分を科しました。

また、関東学生陸上競技連盟より下された裁定については、本年6月末まで同連盟が開催する大会への参加を認めない。第86回箱根駅伝のシード権を取り消し、予戦会から出場。それに伴い第21回出雲駅伝、第41回全日本駅伝への出場枠に推薦しない。という大変厳しい裁定でありました。

この裁定を受け、大学は質問等により、裁定の軽減を求める努力をいたしました。が、裁定が変わることはありませんでした。関東学生陸上競技連盟裁定に対して、最終的な学長としての判断は次の通りであります。

わが日本体育大学は、体育・スポーツを中心とした大学であり、スポーツマンとしてレフェリーの決定に従うことは当然であることから、関東学生陸上競技連盟の裁定について、質問事項の回答も頂き、連盟としての考え方を理解いたしましたので、大学は真摯に受け止めます。

教育における最終責任者である学長として、社会的ルールは尊重し犯した罪は人間として償うことは当然のことであり、また責任の所在を明確にすると同時にその管理責任を真摯に受け止め、さらには今後の再発防止に向けて全力を挙げるべく更なる努力をしなければならぬと考えています。

今回のような男子部員の不祥事で、直接的な責任のあるブロック以外の真剣に勉学とトレーニングに励んでいる部員たち、及び、まるで活動体制の違う女子の部員、さらには何の責任もない新入学生が、「連帯責任」という視点で練習成果を発表する機会まで失うことは断腸の思いであります。

学長としては、このような形で同じような処分を科されることのないように切に願うものであり、この姿勢は今後とも変わらぬ私の考えであります。

スポーツにおける連帯責任の在り方については、有識者によるパネルディスカッションを開催し意見を交わしたいと思っています。またオピニオンリーダーの協力を得て日体大の姿勢をアピールしたいと考えています。

今後の薬物乱用防止啓発活動については次の様な政策を考えています。

1. 薬物乱用防止、アンチドーピング等についての注意喚起・キャンペーン・講習会を実施します。
2. 薬物乱用防止啓発DVDを食堂のモニターテレビにて放映し、啓発活動を実施します。
3. 各運動部に薬物乱用防止読本を配布します
4. 大学管理下である、各寮の定期的な現地調査及び各部の管理下にある運動部の各合宿所についても、部長・監督・コーチ自ら直接現地調査を実施させ、再発防止を図るつもりであります。

最後に、我々の大学は体育・スポーツのリーダー的存在であります。したがって、我々が倫理・道徳観の強い人間になり、まず見本を見せ、尊敬される人になるよう強く願うものであります。

平成二十二年 五月一日 学長 落合 卓四郎

平成20年度退職教員紹介

眞如 紀子 教授 (しんによのりこ)

昭和34年に本学短期大学部体育科を卒業と同時に、東京都足立区立第九中学校の教諭として赴任。以後、40年間中学校教諭を務め、平成3年に大田区立稲谷中学校教諭、平成7年に大田区立大森第六中学校の校長を歴任。平成11年からは、東京都教育委員会の嘱託として大田区立田園調布中学校の相談室に勤務。この間、「東京都道徳教育振興懇談会代表委員」「東京都中学校体育連盟副理事長」「東京都女性校長会副会長」等を歴任。平成10年には東京都教育委員会表彰として「教育功労賞」を受賞。平成12年4月に、本学女子短期大学部教職教育担当講師。助教を経て、平成18年に教授。この間、人事委員会等の主要委員会の委員を務めた。

平成21年3月定年退職

成田 國英 教授 (なりたくにひで)

昭和36年に東京学芸大学を卒業後、東京都立大学において、教育学専攻、心理学専攻で4年間学んだ後、同大学大学院人文科学研究科修士課程修了。在学中から横浜市立綱島小学校に勤務、大学院修了後は、母校東京学芸大学の附属世田谷小学校教諭として勤務。東京都渋谷区教育委員会指導主事、文部省初等中等教育局教科調査官、東京家政学院短期大学教授を経て平成14年に本学教職教育担当教授。文部科学省では、中央教育審議会スポーツ・青少年分科会専門委員、初等中等教育分科会教育課程部会専門委員、学習指導要領の改善に関する調査研究協力者、また、国立教育政策研究所の評価基準、評価方法等の研究開発協力者などを歴任。本学においては教養・教職科長ほか、主要委員会の委員長等を歴任。平成19年7月から副学長を務めた。

平成21年3月定年退職

坂見 敏夫 教授 (さかみとしお)

昭和42年に本学を卒業後、助手、講師、助教を経て、平成11年に教授。スキー及びゴルフを専門として授業及び学友会活動の学生指導・研究にあたる。スキーにおいては、全日本学生スキー選手権で1979年から1992年の間に女子の総合優勝6回、また個人優勝にも導かれ、ゴルフでは、全日本学生ゴルフ選手権で男女団体優勝、男子個人優勝二連覇、女子の個人優勝達成など、輝かしい成績を残す。また、社会体育学科長をはじめ、学生委員会、入試検討委員会等本学の主要な委員会委員を務めた。

平成21年3月定年退職

大坪 敏郎 教授 (おおつとしお)

昭和40年に本学を卒業後、高飛び込みの研究のため渡米、帰国後、企業勤務を経て、昭和44年に本学助手として採用、以後、講師、助教を経て、平成2年に教授。高飛び込みの選手として、東京オリンピック8位入賞、メキシコオリンピック出場、ユニバーシアード3位、アジア大会2位という輝かしい競技実績を残す。また、指導者として、日本選手権優勝、日本学生選手権4年連続男女ともに総合優勝、さらには、世界水泳競技選手権出場選手を育成、アジア大会では個人3位入賞者を輩出した。健康学科長、健志台教学局長という要職を務められたほか、主要委員会の委員長等を務められた。

平成21年3月退職

宮川 八岐 教授 (みやかわ やき)

昭和44年に東洋大学を卒業後、草加市立北谷小学校に奉職、以後、草加市立小山小学校教諭、草加市教育委員会指導主事を経て、平成4年に草加市立氷川小学校校長。平成6年には、文部省初等中等教育局の教科調査官、平成12年に同局視学官、平成16年の国立妙高少年自然の家所長を経て、平成17年に本学の教職教育担当教授。初等中等教育における「特別活動、生徒指導」に関する教材、著書を多数発表されるとともに、日本特別活動学会の常任理事を務められた。

平成21年3月退職

平成21年度 入学試験結果

■大学／体育学部

(2009.3.25現在)

※()内は女子内数 *倍率=受験者数÷合格者数

区 分	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
体育学科	A O 26 (12)	26 (12)	18 (6)	17 (5)	1.44
	推薦 480 (141)	480 (141)	447 (130)	442 (127)	1.07
	一般 1,460 (344)	1,452 (342)	510 (119)	340 (61)	2.85
	学科計 1,966 (497)	1,958 (495)	975 (255)	799 (193)	
健康学科	A O 0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.00
	推薦 24 (21)	24 (21)	22 (20)	22 (20)	1.09
	一般 481 (174)	478 (173)	344 (122)	182 (76)	1.39
	学科計 505 (195)	502 (194)	366 (142)	204 (96)	
武道学科	A O 44 (20)	44 (20)	41 (19)	41 (19)	1.07
	推薦 36 (6)	36 (6)	36 (6)	36 (6)	1.00
	一般 65 (13)	64 (13)	64 (13)	61 (13)	1.00
	学科計 145 (39)	144 (39)	141 (38)	138 (38)	
社会体育学科	A O 0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.00
	推薦 19 (9)	19 (9)	17 (8)	17 (8)	1.12
	一般 576 (106)	572 (106)	374 (65)	187 (39)	1.53
	学科計 595 (117)	591 (115)	391 (73)	204 (47)	
合 計	A O 70 (32)	70 (32)	59 (25)	58 (24)	1.19
	推薦 559 (177)	559 (177)	522 (164)	517 (161)	1.07
	一般 2,582 (639)	2,566 (634)	1,292 (319)	770 (189)	1.99
	総合計 3,211 (848)	3,195 (843)	1,873 (508)	1,345 (374)	

※一般入試には帰国子女特別選抜を含む

■大学院体育科学研究科

区 分	博士前期課程				博士後期課程			
	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
スポーツ文化・社会科学系	16 (4)	16 (4)	13 (3)	12 (2)	8 (2)	8 (2)	6 (0)	5 (0)
トレーニング科学系	24 (4)	24 (4)	15 (3)	14 (3)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
健康科学・スポーツ医科学系	10 (1)	9 (1)	6 (1)	6 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
合 計	50 (9)	49 (9)	34 (7)	32 (6)	12 (2)	12 (2)	10 (0)	9 (0)



2009 オープンキャンパス日程

7/25日(土) 26日(日) 27日(月)
8/22日(土) 23日(日) 24日(月)
9/27日(日)

■開催時間：10:30～16:10 (9月は15:00まで)
横浜・健志台キャンパスにて

■プログラム内容

本学ホームページ「2009オープンキャンパス」にて
随時お知らせします。



■問い合わせ 広報課 ☎03-5706-0948

■短大／体育科・幼児教育保育科

区 分	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
体育科	推薦 118	118	95	75	1.24
	一般 221	221	205	77	1.08
	科 計 339	339	300	152	
	推薦 31	31	29	28	1.07
幼児教育保育科	一般 20	19	19	10	1.00
	科 計 51	50	48	38	
短大合計	推薦 149	149	124	103	1.20
	一般 241	240	224	87	1.07
総合計	390	389	348	190	

■体育専攻科

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
8 (0)	8 (0)	8 (0)	8 (0)

■編入学

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
113 (110)	113 (110)	112 (110)	109 (107)

■短期大学部 専攻科保育専攻

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
34 (34)	34 (34)	34 (34)	33 (33)

■平成21年度 学年暦

学務課

月	日(曜日)	行 事
平成21年 (2009)	3(金) 6(月)～11(土)	入学式(横浜・健志台キャンパス) 新入生オリエンテーション (健康診断、スポーツテスト、学生証手続、履修申告、他) 在学学生 健康診断、履修申告確認等
4	13(月) 13(月)～ 18(土) 29(水)	前学期授業開始 大学 養護実習(健康学科養護コース4年)[5/16(土)まで] 介護等体験事前指導講習会(短大体育科1年・その他) 通常授業(昭和の日)
6	5/25(月)～6/20(土) 8(月)～27(土)	教育実習(大学4年)・教育実習(短大体育科2年) 教育実習2(短大幼児教育保育科2年)
7	4(土)～19(日) 4(土)～17(金) 6(月)～12(日) 7(火)～10(金) 7(火)～17(金) 7(火)～10(金) 12(日)～18(土) 14(火)～17(金) 20(月) 31(金)	夏季実習期間1(通常授業なし)(短大幼児教育保育科は7/5～7/12) 大学 海浜実習(1年) 大学 マリンスポーツ理論・実習(社会体育学科3年) 短大 体験学習(1年) 大学 キャンプ指導実習(体育・健康・武道学科3年) 大学 ゴルフ理論・実習(社会体育学科4年) 大学 ゴルフ指導実習(体育学科2年) 第1・2団(聖石) 水泳指導実習:日赤水上安全法コース(体育学科3年) 通常授業(海の日) 前学期授業終了(大学・短大体育科)(試験を含む)
8	3(月)～7(金) 7(金) 10(月)～ 3(月) 10(月)～	追試験・再試験期間(短大幼児教育保育科は8/8～8/10) 前期授業終了(試験を含む)(短大幼児教育保育科) 夏季休業[9/27(日)まで](短大幼児教育保育科は8/11～9/13) 大学 看護臨床実習[9/4(金)まで] 大学 社会教育実習(社会体育学科3年) [9/27(日)まで]
9	8/29(土)～9/8(火) 14(月) 20(日) 15(火)～25(金) 21(月)～27(日) 22(火)～25(金) 28(月) 9/28(月)～10/9(金)	大学 キャンプ理論・実習(社会体育学科2年) 後学期授業開始(短大幼児教育保育科)ホームルーム(成績ガイダンス含む) 開学記念日 大学 水泳指導実習:ダイビングコース(体育学科3年) 夏季実習期間2 大学 ゴルフ指導実習(体育学科2年) 第3団(菅平) 後学期授業開始 ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)
10	12(月) 31(土)～11/1(日)	通常授業(体育の日) 日体フェスティバル(10/30準備日、11/2撤収日)
11	23(月)	通常授業(勤労感謝の日)
12	21(月) 24(木)～ 22(火)～25(金) 22(火)～26(土) 27(日)～31(木)	12月授業終了日 冬季休業[短大幼児教育保育科1/7(木)まで、大学・短大体育科1/9(土)まで] 比較舞踊学実習(武道学科3年) 大学 スキー理論・実習(社会体育学科2年) 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第1団(ニセコ) 短大 スキー実習(1年)
平成22年 (2010)	12(火) 25(月)～2/5(金) 27(水) 28(木)～30(土) 29(金)	1月授業開始 短大 教育実習1(幼児教育保育科1年) 後学期授業終了(試験を含む)(短大幼児教育保育科) 追試験・再試験期間(短大幼児教育保育科) 後学期授業終了(試験含む)(大学・短大体育科)
2	5(金)～10(水) 5(金)～8(月) 11(木)～25(木) 中旬 12(金)～21(日) 10(水)～20(土) 21(日)～25(木) 11(木)～25(木) 2月末～3月 26(金)～3/4(木)	追試験・再試験期間 伝統芸能実習Ⅰ、Ⅱ 冬季実習期間 伝統文化・交流実習、外国語実践実習(武道学科3年) 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第2・3団(志賀) 短大 スキー実習(1年) 大学 スケート指導実習(体育・健康・武道学科3年) 短大 スケート実習(2年) 大学 スケート理論・実習(社会体育学科3年) 短大 スポーツ現場実習(体育科1年) 介護等体験事前指導講習会 ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(全学年) 在学学生履修申告手続期間(大学1～3年・短大1年)
3	10(水) 11(木)～	卒業式 春季休業[3/31(水)まで]

注) 実習等の期間については、変更することがあります。

■平成21年度新採用教員紹介

①所属:職名 ②所属学科・科 ③所属研究室
④最終学歴 ⑤学位

森嶋 昭伸(もりしま あきのぶ)

- ①[大学:教授]
- ②教養・教職科
- ③教職教育I
- ④中央大学法学部



森 徹(もり とおる)

- ①[大学:准教授]
- ②教養・教職科
- ③教職教育I
- ④横浜国立大学教育学部



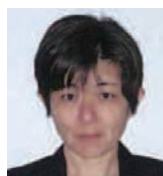
伊藤 清一郎(いとう せいいちろう)

- ①[大学:准教授]
- ②教養・教職科
- ③教職教育Ⅲ
- ④日本体育大学体育学部



大本 洋嗣(おおもと ようじ)

- ①[大学:准教授]
- ②体育学科
- ③運動方法(水泳)
- ④日本体育大学大学院体育学研究科
修士課程
- ⑤修士(体育学)



及川 祐子(おいかわ ゆうこ)

- ①[短大:准教授]
- ②短大体育科
- ③短大教養等Ⅱ教職
- ④日本体育大学体育学部



大東 忠司(おおつか ただし)

- ①[大学:助教]
- ②社会体育学科
- ③運動方法(バドミントン)
- ④日本体育大学大学院体育科学研究科
博士前期課程
- ⑤修士(体育科学)



木原 祐二(きはら ゆうじ)

- ①[大学:助教]
- ②社会体育学科
- ③運動方法(ゴルフ)
- ④日本体育大学体育学部



松本 慎吾(まつもと しんご)

- ①[大学:助教]
- ②体育学科
- ③運動方法(レスリング)
- ④日本体育大学大学院体育科学研究科
博士前期課程
- ⑤修士(体育科学)

【編集後記】 今年も折り返しに入り、新入生導入プログラムの最終段階である海浜実習、体験学習が実施される頃になりました。また、今号の特集「教育展開を語る」で紹介した教育・学生支援の充実のための施策が、いよいよ進められるのと並行して、東京世田谷キャンパス再開発の第二期工事が来年5月の竣工に向けて着々と進められています。新入生を迎え、一段と活気に溢れる学内の雰囲気刺激を受けながら、我々教職員も日々の業務を執り行っております。現在、取り組んでいる改革構想計画が学業やクラブ活動に励み、それぞれの夢の実現に邁進する一人ひとりの学生の後押しになればという思いをあらためて感じているところです。